

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタディ放課後デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		～ 2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年3月3日		～ 2025年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援(家族支援、療育、地域支援)を職員がチームで連携して行っている。緊急対応なども行い、家庭の困り感に迅速対応している。	事業所内相談支援や親子発達支援等を定期的に行い、その過程の困り感を聴き取り、チームで情報を共有して支援に繋げている。スーパービジョンによって風通しの良い職員関係を築いています。	発達支援を各機関と連携して行い、包括的に行っていきます。
2	適切な支援の提供:子どもに応じた適切な関わりを行うように、事業所内の会議を開き、子どもの状態、家族の状況を把握し関わりを一致させながら子供らしい療育の提供を行っています。	・重度の子が多いクラスであるが季節に合わせた活動行っ療育の充実に努めている。(そり遊び、散歩等) ・家庭との連携は事業所内面談、送迎時に話す、電話連絡、緊急携帯など連携を図っています。	今後もより充実した療育を行う為にクラス会議などで活発に意見を出し合えるようにとりくんでいきます。
3	家族支援を重要な支援として法人全体で様々な家族支援の場があり個別カウンセリング、グループカウンセリング、自助会等、親子発達等家族の困り感に寄り添って支援を行っています。	家庭との連携は事業所内面談、グルカン、CSP、送迎時に話す、電話連絡、緊急携帯など連携を図っています。 必要な時は家庭訪問を行い家族支援を行って行きました。	これからも保護者に寄り添って困り感には適切な関わりを持つようにチームで取組む事を行っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用対象児が支援級・支援学校等障害の程度の幅が広い中、意思疎通の問題や活動の取り組みに差異があり支援の細分化があります。	利用者の理解や関わりに対して広い専門領域が必要になってきます。	幼児部門や学童部門等の研修会や事例検討などでさまざまな子どもの障害や特性について学んでいきます。
2			
3			